

# 大川小卒業生が団体設立し意見表明「校舎を命救う学びの場に」

02月13日 15時05分



東日本大震災で多くの児童らが犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校の出来事や教訓を後世にどのように伝えていくか考えようと、卒業生たちが団体を立ち上げ、「校舎を、未来の命を救う学びの場にしたい」などと意見表明を行いました。

団体を立ち上げたのは、津波で児童と教職員あわせて84人が犠牲になった大川小学校の卒業生と震災直後から支援してきた人たちです。

13日は児童の遺族なども参加して石巻市内で意見表明の場が開かれ、まず、全員で黙とうをささげました。

続いて、団体の代表で当時5年生だった只野哲也さんが「84人の思いと学校での出来事を後世に伝えていく第一歩にしたい」とあいさつしました。

このあと、メンバーが意見表明を行い、当時5年生だった今野憲斗さんは「思い出を語り継ぐとともに、今後、同じような被害を生まないためにも震災遺構となった校舎を残していきたい」と話しました。

また、当時中学1年生で大川小学校で弟と妹を亡くした尾形響聖さんは「行政とも力をあわせて、それぞれの思いを語れるような場を作っていきたい」と話しました。

そして只野さんは「未来の命を救うとともに、災害時にも子どもらしくいられるよう教訓を伝え続けるために、校舎のあるべき姿をみんなと一緒に考えたい」と述べました。

団体では今後、講演会などを通じて活動を広げていきたいとしています。